

# 会派先進地視察報告書

◇ 1月15日（月）

「学校法人産業医科大学」

治療と仕事の両立に向けた働き方改革について

◇ 1月17日（水）

「山口県下関市」

コミュニティスクール推進事業について

2018年 1月

知多市議会「市民クラブ」

市民クラブ先進地視察報告書

日 時	平成 30 年 1 月 15 日（月）午後 1 時から午後 3 時まで
視 察 先	学校法人産業医科大学
視 察 項 目	治療と仕事の両立に向けた働き方改革について
視 察 者	市民クラブ（夏目 豊、荻田信孝、島崎昭三、古俣泰浩、林 正則、藤井貴範）
視 察 内 容	<p>(1) 働き方改革実現会議における提言を踏まえた今後の産業医・産業保健機能の強化について</p> <p>ア 治療と仕事の両立支援における産業医の役割の重要性</p> <p>イ 長時間労働やメンタル不調などの問題を抱える労働者に対する産業医による面接指導や健康相談の強化</p> <p>ウ 産業医の独立性や中立性の向上など、産業医のあり方の見直し</p> <p>提言においては、これらにより、働く人々が健康不安なく、働くモチベーションを高め、最大限に能力を発揮することを促進するとされている。</p> <p>(2) 治療と就業生活の両立支援の進め方について</p> <p>ア 労働者が事業者へ申し出</p> <p>(ア) 労働者から主治医に対して、一定の書式を用いて自らの業務内容等を提供</p> <p>(イ) それを参考に主治医が一定の書式を用いて症状、就業の可否、時短等の望ましい就業上の措置、配慮事項を記載した書面を作成</p> <p>(ウ) 労働者が主治医に作成してもらった書面を事業者へ提出</p> <p>イ 事業者が産業医等の意見を聴取</p> <p>事業者は、労働者から提出された主治医からの情報を、産業医等に提供し、就業上の措置、治療に対する職場での配慮に関する意見を聴取</p> <p>ウ 事業者が就業上の措置等を決定・実施</p> <p>事業者は、主治医、産業医等の意見を勘案し、労働者の意見も聴取した上で、就業の可否、就業上の措置、治療に対する配慮の内容を決定・実施</p>
所 感	<p>国会では働き方改革が論点の一つとなっているが、中でも経験豊かな労働者ががんなどの疾病による休職を前提と考えるのではなく、働きながら治療していくという取り組みは、時代の要請になっており、新たな視点を組み込んだ法制整備が求められている。</p> <p>厚生労働省が示した「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」が実行されていないこともあり、関連する産業医科大学にモデルとなる両立支援科の設置が指導されたものと受け止めている。</p> <p>このような医療機関の受け皿が全国に波及することを期待したい。</p> <p>本市においても、勤労者が多く在住しており、また公立西知多総合病院においては、放射線治療施設の導入を計画していることから、上記ガイドラインに沿った取り組みを検討するよう求めている。</p> <p>産業医の果たす役割の重要性についても理解できた視察であった。</p>

市民クラブ先進地視察報告書

日 時	平成 30 年 1 月 17 日（水）午前 10 時から正午まで
視 察 先	山口県下関市
視 察 項 目	コミュニティスクール推進事業について
視 察 者	市民クラブ（夏目 豊、荻田信孝、島崎昭三、古俣泰浩、林 正則、藤井貴範）
視 察 内 容	<p>(1) コミュニティスクールについて</p> <p>教育委員会から任命を受けた保護者や地域の方が、一定の権限を持って、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動について意見を述べたりする活動を通じて学校運営に参画する仕組みである「学校運営協議会」が設置された学校。よりよい学校づくりのために、学校・家庭・地域が連携・協働しながら、学校運営や地域と一体になった教育を進めている。</p> <p>(2) 成果と課題について</p> <p>ア 児童生徒・学校の成果</p> <p>学校が地域に対して開かれたことで、多くの学習ボランティアや地域の方に見守られながら学習・生活することができ、自己肯定感を持つようになった。</p> <p>イ 地域・保護者の成果</p> <p>地域の方や保護者に学校運営協議会に参画いただく中で、学校教育への理解が深まった。</p> <p>ウ 課題</p> <p>中学校区での小中連携による取り組みの充実と地域の理解、教職員の参画意識の醸成</p>
所 感	<p>中学校区内の小中学校が連携・協働し地域の人たちと情報を共有しながら、一体的に子どもたちを見守り育てていくコミュニティスクールの取り組みは大変参考となった。</p> <p>本市は、小学校区を中心としたコミュニティで活動していることから、中学生との活動がともすれば希薄となっている点に課題がある。このことから常に中学生も巻き込んだ小中連携はとてもよい活動であることが認識できた。</p> <p>活動では、学校応援団が組織されていて、学習支援、環境支援、安全支援活動に取り組み、児童・生徒が地域行事やボランティア活動へ参加し、地域住民との交流、学校が企画する地域の方を対象とした講座開催等参考となる事例の紹介があった。</p> <p>地域を巻き込んだ取り組みが、児童や生徒、学校、家庭、地域にとって魅力的な活動となり、地域で子どもを育てるコミュニティスクールを学ぶことができた視察であった。</p>